



熊野川懇談会ニュース

第13回熊野川懇談会を開催



撮影日：令和3年5月29日

Contents

- 第13回懇談会の概要
- 熊野川懇談会へのご意見受付方法・資料入手方法

No.14

2021年6月発行

第13回熊野川懇談会が開催されました

第13回熊野川懇談会が開催され、第110回河川整備基本方針検討小委員会の概要、「明日の熊野川整備のあり方（追記版）」（案）、河川整備の目標設定、今後の予定について、意見交換が行われました。

第13回熊野川懇談会の主な内容は以下のとおりです。

<第13回 熊野川懇談会の概要>

◆ 開催日・場所

- 開催日：令和3年5月30日（日）
- 開催方法：WEB会議
（Youtubeでのライブ配信を実施）
- 参加者：懇談会委員 14名
河川管理者等 7名



■ 第13回熊野川懇談会の様子

◆ 議事内容

1) 第110回河川整備基本方針検討小委員会の概要について

紀南河川国道事務所より、同小委員会で審議中の「新宮川水系河川整備基本方針の変更」の概要について報告した。

（委員からの主なご意見） ■委員からの意見 □紀南河川国道事務所からの回答

■基本高水24,000m³/sはどのような考えで設定したのか。（井伊委員）

□過去の実際の雨の降り方や将来予測した雨の降り方から算定した流量や紀伊半島大水害の実績洪水量などを総合的に判断し、実際の雨の降り方から算定した最大流量と紀伊半島大水害の実績洪水量に相当する24,000m³/sに設定された。（紀南河川国道事務所）

■今後、24,000m³/sを超える出水が発生する可能性もあるが、超えた場合には対策をしないということなのか。（井伊委員）

□計画規模1/100の降雨に対して基本高水として設定されたものであるが、アンサンブル予測では26,000m³/sぐらいの流量になることが基本高水の設定において記録に残っており、超えるものについて考えないわけではない。（紀南河川国道事務所）

■アンサンブル予測降雨の中で、「過去の実績洪水には含まれていない将来の降雨パターン」というのがある。これは、実際にアンサンブル予測のシミュレーションの中で発生した時空間分布が過去のパターンにないものということを示していると思われるが、どのような分布だったのか教えて欲しい。（立川委員）

■「26,000m³/s（青丸）や過去の実績洪水には含まれていない降雨パターン（緑三角）は整備途上の上下流、本支川のバランスのチェック等に活用」との記載があるが、どういうことに気を使わないといけないのか。（立川委員）

■気温2℃上昇時の降雨量変化倍率1.1倍のシミュレーション期間はどれくらいか。この期間が熊野川整備のあり方で考えるタイムスケールと同じになると思う。（森委員）

2) 「明日の熊野川整備のあり方」追記内容について

藤田委員長より、「明日の熊野川整備のあり方（追記版）」（案）の説明があり、各委員からの意見等を反映し、委員長一任でとりまとめられることが確認された。

（委員からの主なご意見） ■委員からの意見

■SDGsの記載について、17項目の内どの項目に該当するかを明示すべき。（森委員）

■利水ダムの事前放流をより効果的なものにするため、降雨予測技術の向上に関する研究開発、特に長時間の予測技術の向上や常用洪水吐の検討が必要である。（立川委員）

■土砂の量的管理のみならず、動植物の生息・生育環境にも配慮した質的（粒径）管理も必要である。（松尾委員）

■河道掘削の際には、魚の遡上生態にも配慮したみお筋の施工が必要である。（加治佐委員）

■河道内の耕作地・グランド等の比率が増えているがその背景は何なのか。（高須委員）

- 「4. 社会環境における留意点」の記述で、「・・・濁度は低減傾向にある。しかしながら、平成23年以前の状態には未だ戻っていないのが現状である。」と記載すべき。(松尾委員)
- 川港遺跡がかなり広がっているようなので、川港遺跡に関する記述を「・・・熊野川河口域には自然堤防沿いに広がっているとみられる川港遺跡・・・」と記載すべき。(山本委員)
- 「4. 社会環境における留意点」について、観光業への配慮だけでなく「コロナ禍における観光業への配慮や地域づくり、まちづくりも地域が一体となって考えていく」という表現にすべき。(岸上委員)
- 「6. その他の留意点」に「個々の留意点(濁水問題や土砂堆積等)を考えるとともに、留意点を総合的に考える」と記載すべき。(井伊委員)
- 超過洪水という文言をわかりやすく表現すること。(横田委員)

3) 河川整備の目標について

河川整備の目標設定や整備内容の考え方について、つぎのとおり確認された。

- ① 熊野川河川整備計画では20～30年の実現可能な目標設定を行う。
- ② 関係者との議論を重ね、利水ダムの治水協定では、全ての洪水に対応できないとしても河川整備計画に盛り込む方向で検討する。
- ③ 河川整備計画が策定された後でも、今後の出水や事業進捗によって計画は見直される。

(委員からの主なご意見) ■委員からの意見 □紀南河川国道事務所からの回答

- 利水ダムの治水協力を河川整備計画に位置付ける際は、河川整備計画以外の関連する法規等についても確認しつつ、事前に利水事業者など関係者との十分な議論が必要である。(立川委員)
- 河川整備計画に盛り込む際には、法規等の整合にも配慮し関係者と調整を図っていきたい。(紀南河川国道事務所)

4) 今後の予定

河川整備計画(案)公表までのスケジュールが確認された。
第14回の懇談会が6月27日に開催されることが確認された。

5) その他

(ニュースレターの配布)

- ・第13回熊野川懇談会のニュースレターについては、閲覧用に設置のみとし、配布は行わないことが確認された。

【懇談会へのご意見受付方法】

熊野川懇談会に関するご意見等は「熊野川懇談会」のホームページの「ご意見」のバナーをクリックしていただくと「熊野川懇談会へのご意見等」のページが開きますので、「意見を送る」をクリックしていただき、ご意見等をお寄せください

熊野川懇談会ホームページ

https://www.kkr.mlit.go.jp/kinan/river/kumano_kondan/index.html



ホームページ
による受付



FAX・原稿送付
による受付

FAX をご利用の場合、または原稿送付の場合は以下の連絡先にご連絡ください。

【連絡先】熊野川懇談会 庶務

三井共同建設コンサルタント株式会社

(担当：豊島・楠・升水・牧野)

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-900号

大阪バイタワーオフィス9階 FAX：06-6599-6050

【資料入手方法】

懇談会資料は、熊野川懇談会ホームページよりダウンロードできます。

熊野川懇談会ホームページ

https://www.kkr.mlit.go.jp/kinan/river/kumano_kondan/index.html



ホームページ
による入手



熊野川懇談会ニュース No.14

【編集・発行】熊野川懇談会 2021年6月発行

【連絡先】熊野川懇談会 庶務

三井共同建設コンサルタント(株) (担当：豊島・楠・升水・牧野)

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-900号 大阪バイタワーオフィス9階

Tel：06-6599-6024 FAX:06-6599-6050

熊野川懇談会ホームページアドレス https://www.kkr.mlit.go.jp/kinan/river/kumano_kondan/index.html

※メールにつきましては、ホームページの「ご意見等」をご利用ください。